鹿児島市立明和小学校
「明るいあいさつ，読書と花いっぱいの学校」

めいわ

10月の目標
生活：たくましい心と体を育てよう
保健：目を大切にしよう

https://www.keinet.com/meiwas/

TEL：２８１－２７２４　令和４年　１０月号　児童数　390人

家族そろって「読書の秋」を！

校　長　　井上　貴文

ひんやりとした空気が心地よい季節となりました。深まる秋を思う存分楽しみたいと思います。特に，本校では，１０月３日から２１日までを校内読書期間として，読書活動を推進しています。みなさんは，「読書の秋」と言われる由来を知っていますか。それは，唐（中国）の文人である韓愈（かんゆ）の詩の中の「燈火（とうか）親しむべし」という一節から来ているといわれています。これは，「秋になると涼しさが気持ちよく感じられる。そんな秋の夜長は明かりをつけて本を読むのに適した季節である」という意味だそうです。

先日の全校朝会で，わたし自身の読書体験から，小学生の頃，母に勧められて読んだ鹿児島にゆかりの深い椋鳩十先生の作品と，大谷翔平選手の活躍とともに名前をよく耳にする「ベーブ・ルース」の紹介をしました。椋鳩十先生の作品は，大自然を舞台に，動物の命の尊さ，家族の愛情や絆など感動いっぱいの作品がたくさんあります。また，ベーブ・ルースは，野球というスポーツをとおして人間として成長し球史に残る数々の偉大な記録を打ち立ててきた生涯を描いています。学校図書館司書の福田先生が，図書室のカウンターでも紹介してくださっていますので，ぜひ読んでほしいと思います。

さて，読書することのよさは，たくさんあると思いますが，教育学者の齋藤孝（さいとうたかし）先生は，著書の中で次のように述べています。

◎　読書をする人だけがたどり着ける場所　・・・「深い人」「魅力ある人」に
◎　一流の人の「認識力」　・・・「経験の差」は「認識力の差」一流の人の認識力に触れる
◎　磨く「思考力」　・・・先を予測しながら読む
◎　世界を広げる「知識」　・・・知識が増えると認識力も高まる　人生観まで変わる
◎　偉大な人の器に触れる　・・・名著を残す著者の並外れた器に触れる

今の時代，映像や動画，ゲーム的要素で好奇心を高め子供たちを魅了する機器がたくさんあります。ですから，なおさらそれらの使用方法についてはご家庭でよく確認し，両者がうまく共存できる方法を探ってみてはいかがでしょう。読書は子供たちにとって，想像力や思考力，豊かな人間性を育てるうえでたいへん重要です。日頃から本を身近に置き，少しの時間を上手に使って読書をする習慣を身に付けさせたいものです。

本校では，毎月２３日を親子読書の日・アウトメディアの日としています。子供たちに読書の魅力を伝えるために，ご家族が本に向かっている姿を見せることはとても有効です。例えば保護者の方が小学生の時に読んでいた本を紹介したり，同じ本を読んで感想を伝え合ったりすることなども，本に親しむきっかけとなるのではないでしょうか。「読書の秋」は，子供たちだけのものではありません。慌ただしい日々の中で少しの時間を作り，家族みんなで「読書の秋」を楽しんでみませんか。